

市場動向

■USD/TWD



■USD/JPY



■JPY/TWD



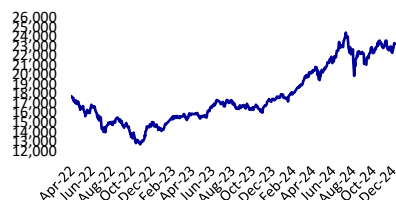
■EUR/USD



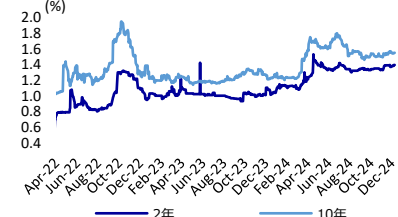
■USD/CNH



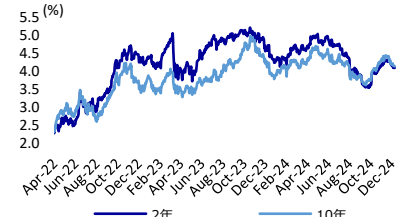
■台湾加権指数



■台湾国債利回り



■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは下落。週初12/2は32.495でオープン後、トランプ氏による関税政策への警戒感から、リスク回避のドル買いが進行。その後、人民元が下落する中、台湾ドルも連れ安となり、最終的に32.598でクローズ。12/3は、人民元が引き続き軟調に推移する中、外資による資金流出が継続し、一時32.678まで上昇。午後、台湾株の上昇とともに、ドル売りが優勢な展開となり、32.536でクローズ。12/4は、人民元が上昇に転じる中、台湾ドルも買い優勢の展開となり、最終的に32.448でクローズ。12/5、ドル/台湾ドルは下落してから上昇に転じ、最終的に32.438でクローズ。12/6は、米11月雇用統計の結果発表を前に様子見ムードが広がる中、外資による資金流入が見られたことで、ドル/台湾ドルは32.400近辺でレンジ推移。最終的には前週比0.15%ドル安台湾ドル高の32.408で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は761.1億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円は上昇。週初12/2は149.66でオープン後、先週末のトランプ氏の発言を受け、ドル/円は150円台近辺で底堅く推移。海外時間に入ると、FRB理事の発言を受け、ドル/円は一時149.09まで下落。最終的に149.58でクローズ。12/3は、FED高官のハト派的発言を受け、ドル/円は一時148.65まで急落。海外時間、発表された米10月JOLT求人件数が市場予想を上回ったことを背景に、ドル/円の下げ幅は縮小し、149.63でクローズ。12/4は、日銀の利上げ観測が後退したことを受け、ドル/円は一時151.23まで上昇。海外時間、米11月ADP雇用統計が予想を下回った事が嫌気され、150円台近辺まで下落。12/5は、米非農業部門雇用者数の発表を控える中、動意に欠ける展開が続いた。12/6は、アジア時間を通して方向感の出にくい展開が続いたが、海外時間に入ると、先週末に発表された雇用統計が強弱まちまちの内容となったことを受け、一時149円台前半まで下落。その後はやや値を戻し、最終的には前週比0.21%ドル高円安の150.04で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：32.200-32.550

今週のドル/台湾ドルは上値の重い推移を見込む。重要なCPIの結果発表を控える中、12月FOMCの追加利下げの確率は約80%までに織り込まれ、米台金利差の縮小が進みやすいだろう。外資による資金流入が続く場合、ドル/台湾ドルは上値重く推移と想定。

■USD/JPY 予想レンジ：147.00-152.00

今週のドル/円は揉み合いの推移を見込む。米経済指標が堅調な結果となったものの、米11月CPIの発表にも注目が集まりそう。日本では年内利上げ観測が高まっていたものの、日銀高官による慎重な発言を受け、様子見姿勢が強まりやすいだろう。

今週の予定

12/9 (MON)	日Q3GDP、台湾11月貿易収支、11月輸出物価指数
12/10 (TUE)	
12/11 (WED)	米11月CPI
12/12 (THU)	米11月PPI、欧州中央銀行(ECB)政策金利
12/13 (FRI)	日銀短観・四半期大企業製造業業況判断、日10月鉱工業生産、米11月輸入/輸出物価指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。